

GV-28iF インバーター発電機 取扱説明書（保証書付）

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

目次

はじめに

安全上のご注意.....	2
各部の名称と付属品.....	8

準備

運搬する	13
給油.....	14

使用方法

エンジンの始動.....	16
電気の取り出し	18
並列運転	20
エンジンの停止	21

保守・点検

保管.....	22
定期点検を行きましょう	24
「故障かな?」と思ったら（故障と処置）....	25
整備.....	28

その他

仕様.....	36
パーツのご注文は	39
保証書	40

▶ 動画で見る

本誌内に掲載の二次元コードから
動画をご覧いただけます。



- 動画の内容は予告なく変更・削除されることがあります。
- 通信料金はお客様のご負担となります。

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
ございました。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- お読みになった後も保管してください。
- 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。




仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

乱丁、落丁はお取り換えします。

安全上のご注意

使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。






■ お守りいただく内容を区分して説明しています。






 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

■ その他の表示




 ここがポイント！ 正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。

■ 本機に関すること













 危険
 平坦・水平な硬い場所に置く 燃料タンクキャップやキャブレターからガソリンが漏れ、火災の原因になります。
 建物およびほかの設置物から1 m以上離して置く
 換気や風通しの悪い場所、排気ガスがこもる場所（室内、車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど）で使用しない エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因になります。
 吊り金具以外を使用して本機を吊り上げない 本機が落下するなどして破損のおそれがあります。

 排気・吸気口を風通しの良い広い場所に向けて置く
 本機に箱やカバーをかぶせたり、タオルなど燃えやすいものをくくりつけたりして使用しない 火災や故障の原因になります。
 本機のまわりに危険物、燃えやすい物を置かない 本機から出る排気ガスは熱くなるため、本機や接続機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故の原因になります。
 本機およびガソリン入り携行缶は直射日光の当たる車内やトランクなどの高温となる場所に放置しない ガソリンが気化して引火しやすい状態になる原因になります。
 コンセントにピンや針金などの金属物をさし込まない 感電の原因になります。


危険


-  ストレーナーカップ、ストレーナーおよびガスケットを必ず取り付ける
取り付けが悪いとガソリンが漏れ、火災や爆発の原因になるおそれがあります。
-  雨の中や水のかかる場所では使用しない
雨や水でぬれている状態で本機や接続機器を使用したり、ぬれた手で操作したりすると、感電の原因になります。
-  本機を水洗いしない
電装部品の事故やショートが起きる原因になります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因になります。


警告

-  エンジンを始動させる前に必ず使用前の点検を行う
人身傷害や機械の破損を防止することができます。(詳しくは16ページ参照)
-  車両(キャンピングカーなど)や船舶に積載したまま使用しない
-  本機に貼付された警告ラベルに従う
高温になる部品があるため、ヤケドのおそれがあります。
-  並列運転端子には専用コード以外は絶対に接続しない
感電のおそれがあります。
-  並列時、互いの排気・排熱が当たらないよう設置する
一方の排気・排熱がもう一方に当たり、火災など思わぬ事故の原因になります。
-  本機に子ども・ペットが触れないよう、隔離措置をして安全な場所で使用する
-  医療機器への使用は行わない
-  使用時には、適用される法律や規則に従う
労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。
-  電力会社からの電気配線には絶対に接続しない
火災や人身事故、本機や接続機器が故障する原因になります。
-  本機から離れるときは、必ずエンジンを停止し、コンセントから接続機器のプラグを外す
思わぬ事故の原因になります。
-  ろ過部(ウレタン)の洗浄は換気の良い場所で行う
-  点検や清掃時は必ずエンジンを停止する
誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチは「OFF」にし点火プラグキャップを取り外してください。


警告


-  燃料タンクキャップはしっかりと締め付ける


-  本機を分解、修理、改造しない
取扱説明書に記載されている以外の分解や修理、改造は絶対に行わないでください。異常動作してケガをする、また本機や接続機器が故障する原因になります。


-  次のときは本機を使用しない
 - 疲れているとき、身体が不調のとき
 - 酒類や薬を飲んで正常な操作ができないとき


注意


-  本機を車に積んだまま長時間悪路を走行しない


-  長期保管前には燃料タンクやキャブレター内のガソリンを抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する
抜き取ったガソリンは火災や爆発の原因になりますので、適切に処理してください。


-  お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ作業を依頼する


-  接続機器はエンジンを始動してから接続する


-  欠陥のある（配線およびプラグや接続部などが故障している）接続機器を使用しない


-  使用中、使用直後は本機にさわらない
排気口やエンジン各部は高温になっているため、ヤケドの原因になります。

-  本機に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所に置かない
故障およびエンジン部品の早期摩耗の原因になります。









-  燃料タンクの上に物を置かない

-  リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻す
始動装置や回りの部品の破損または使用者に傷害を与えるおそれがあります。


-  コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用する








-  使用中は移動しない

注意

-  **本機は常に水平にする**
落下、横転などによりエンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時は転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。
-  **使用中に音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止する**
本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」または購入店へご相談ください。
-  **始動時や使用中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップをさわらない**
感電の原因になります。
-  **給電前に接続機器のスイッチが切れていることを確認する**
スイッチが入っていると、接続機器が急に作動し、思わぬケガや事故を引き起こす原因になります。
-  **チョークノブを「始動」位置で長時間使用しない**
エンジンの故障の原因になります。
-  **直流 (DC) と交流 (AC) を同時に取り出す場合の交流 (AC) 機器の消費電力は、次の範囲を守る**
50/60 Hz…2,700 W
-  **直流電源で使用する場合は、電圧12 V、始動電流が8 A以下の接続機器であることを確認する**
-  **次の場合は接続機器のメーカーなどに確認する**

 - 機器の周波数がわからない場合
 - 機器の接続可否がわからない場合






異なった周波数で使用すると、接続機器の故障の原因になります。
-  **電圧変化に敏感な精密機器などは使用しない**
本機の電圧は接続機器の電力供給負荷により変化する場合があります。

-  **本機を使用しないときはエンジンスイッチを「OFF」にして、燃料コックを「止」にする**
-  **エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機に箱やカバー・シートなどをかぶせない**
火災の原因になります。
-  **使用中はリコイルスターターグリップを引かない**
エンジンが破損する原因になります。
-  **ストレーナーが破損している場合は新品と交換する**
-  **点火プラグは慎重に取り付ける**
最初は必ず手で取り付けてください。最初から点火プラグレンチを使用して取り付けると、ネジのタップが潰れるおそれがあり、エンジン破損の原因になります。
-  **点火プラグ脱着時は、碍子（がいし／白い陶器部分）を損傷させないように注意する**
碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発する原因になります。
-  **点検・整備はエンジンが冷えてから行う**
エンジン停止直後は、エンジンや排気口、エンジンオイルの温度が高くなっているため、ヤケドのおそれがあります。





安全上のご注意

■ ガソリンまたはエンジンオイルに関すること


危険

-  給油時は次のことに注意する
 - エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
 - タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
 - 身体の静電気を放電する火気や人体の静電気の放電による火花がガソリンに引火し、火災の原因になります。
-  ガソリンを抜くとき、電動式ポンプは使用しない
引火の原因になります。
-  運搬時はガソリンを抜く
ガソリンが漏れ、火災の原因になります。
-  使用中にガソリンの補給をしない
-  ガソリンをこぼさない
ガソリンがこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。


警告

-  エンジンオイルの交換は、エンジンが冷めるのを待つ
長時間使用後はエンジンオイルが熱いため、ヤケドの原因になります。
-  給油は、換気の良い場所で行う
-  古いガソリンは使用しない
携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因になります。
-  ガソリンを飲み込んだり、目に入った
り、燃料蒸気を吸い込んだりした場合は、直ちに医師の診断を受ける


注意

 購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量補給する


工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。エンジンオイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、オイルアラート機構が働き、エンジンが始動しません。

 こぼれたガソリンやエンジンオイルは完全に拭き取る


拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

 エンジンオイルを規定量以上に給油しない

入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因になります。

 本機を傾けてエンジンオイルを給油しない


傾けると規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因になります。

 ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用する


特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。


 指定外のガソリンや、燃料添加剤を補給しない


エンジンなどに悪影響を与えます。

 定期的な交換時期にエンジンオイル交換をする

エンジンが焼き付きなどの故障を起こすおそれがあります。24ページ「定期点検を行いましょう」に基づいて交換してください。

 給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意する

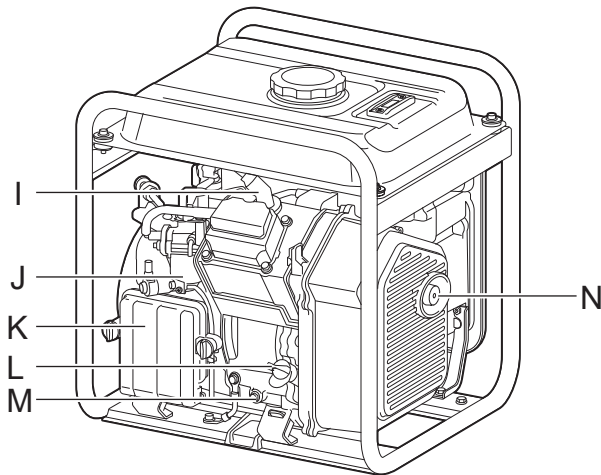
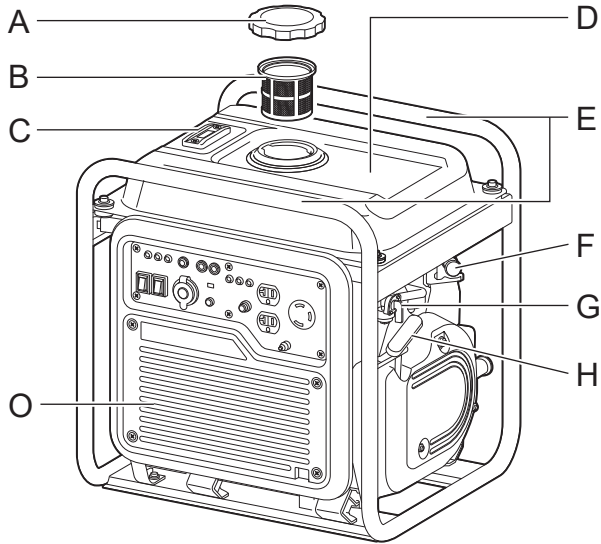
 ガソリンは規定量以上（ストレーナーの給油限界位置以上）給油しない
入れすぎると、燃料給油キャップからにじみ出て、火災の原因になります。

 ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える

各部の名称と付属品

1. 各部の名称

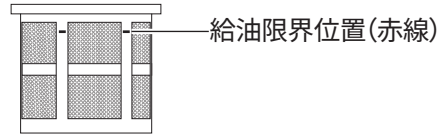
1.1 本体



A. 燃料タンクキャップ

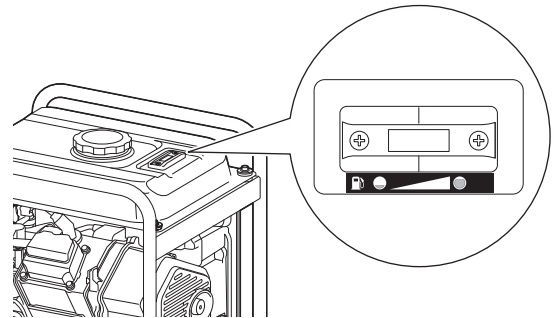
燃料タンクキャップを開けると中にストレーナーがあります。

B. ストレーナー



C. 燃料残量計

ガソリンの残量目安を表示します。



満タンのときは赤いバーが●を指し、少なくなるとつれ○に近づきます。

ここがポイント！

- 表示は目安です。本機を水平にした状態で確認してください。
- 満タンの確認は、必ずストレーナーの給油限界位置にて行ってください。

D. 燃料タンク

E. フレーム

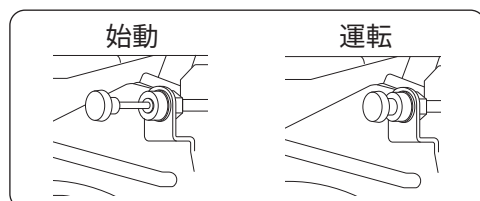
本機を移動させるときに持つパイプです。

F. チョークノブ

エンジンを始動させるときに使用します。

始動：エンジン始動時の位置

運転：エンジン運転時の位置



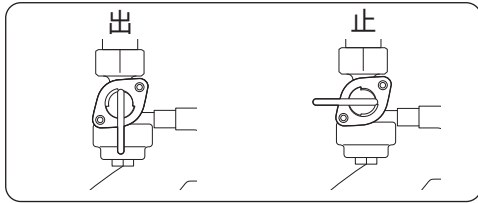
各部の名称と付属品

G. 燃料コック

ガソリンの流れを切り替えます。

出：始動および運転時

止：停止および保管時



H. リコイルスターターグリップ

エンジンを始動させるときに使用します。

I. 点火プラグ／点火プラグキャップ

点火プラグキャップを外すと点火プラグがあります。(30ページ参照)

J. キャブレター

ガソリンを気化し空気と混合する装置です。

K. エアクリーナー

(32ページ参照)

L. オイルプラグ／オイル給油口

(15ページ参照)

M. オイルドレンボルト

(29ページ参照)

N. 排気口

エンジンの排気が出ます。

O. 冷却風取入口

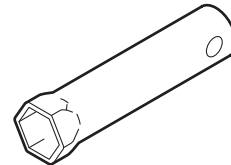
エンジンなど発電機内部を冷やすための空気の取入口です。ここが草などで詰まると本機が故障するおそれがあります。

1.2 付属品

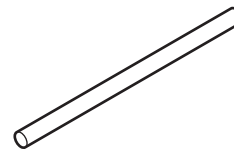
同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。

点火プラグレンチ (六角対辺：20.8 mm)

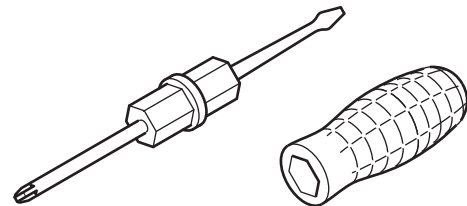
I. 点火プラグを取り付け・取り外しするときに使用します。バーハンドルを穴にさし込み使用します。



バーハンドル



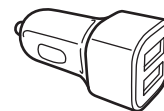
ドライバー (プラスマイナス兼用)



USBアダプター

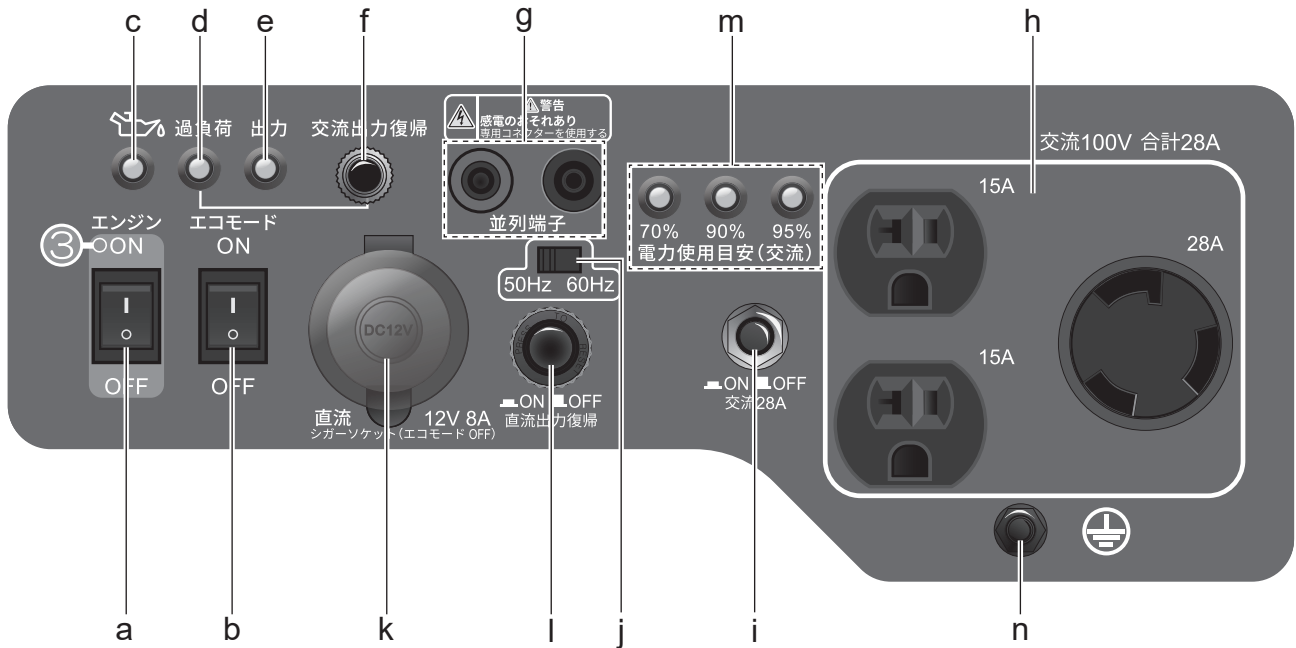
USB機器を使用するとき、シガーソケットにさし込んで使用します。

(18ページ「2. 直流電源 (DC 12 V 8 A・シガーソケット)」、38ページ「3.2 直流」参照)



各部の名称と付属品

1.3 コントロールパネル



a. エンジンスイッチ

ON：エンジン運転時

OFF：エンジン停止および保管時

b. エコモードスイッチ

使用電気量に応じてガソリン消費と騒音を減らす「エコモード」を使用するスイッチです。

エンジン始動時にはエコモードスイッチを「OFF」にしてください。

ON：ガソリン消費と騒音を減らします。

OFF：エンジンは定格回転で運転します。



ここがポイント！

- エンジン始動時、シガーソケット（直流）使用時、起動時に大電流が流れる接続機器（水中ポンプ、コンプレッサーなど）の使用時は、エコモードスイッチは「OFF」にしてください。
- 定格出力以下でも電気の取り出し量が多く、エコモードで対応できない接続機器を使用した場合、エコモードスイッチが「ON」でも自動的に定格回転で運転に移行します。
- エコモード「ON」時に接続機器が使用できない場合は「OFF」にして使用してください。

c. オイル量警告ランプ（赤）

エンジンオイル不足によるエンジン焼き付きを防ぐため、エンジンが停止します。その際、このランプが点灯します。



ここがポイント！

- エンジンオイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイルアラート機構が働きエンジンが停止することがあります。水平状態にして使用してください。
- エンジンオイルの給油は本機を水平状態にして行ってください。傾斜していると、正しい量が入りません。

d. 過負荷警告ランプ（赤）

発電中に点灯、点滅します。（19ページ）



ここがポイント！

- このランプが点灯したときは11ページ「f. 出力復帰ボタン（交流用）」を参照してください。

e. 出力ランプ（緑）

発電中に点灯します。（19ページ）

各部の名称と付属品

f. 出力復帰ボタン（交流用）

d. 過負荷警告ランプ（赤）が点灯およびe. 出力ランプが消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力ランプ（緑）が点灯し電気の供給が再開されます。



ここがポイント！

このボタンを押す前に使用している接続機器を取り外し次を確認してください。

- 電気の取り出し過ぎがないか
使用する接続機器は必ず定格出力内で使用してください。（36ページ「1. 主な仕様」、38ページ「3.1 交流」参照）
- 接続配線に異常がないか
- 本機の冷却風取入口がふさがれていないか

g. 並列端子（交流用）

2台の当社製発電機を専用の「3 kVA用並列コネクタ（別売）」（39ページ）を使用して並列に接続するための端子です。並列接続については20ページ「並列運転」を参照してください。他社の発電機と接続することはできません。

h. 交流コンセント（100 V 合計28 A）

交流出力端子です。
コンセントへプラグをさし込む場合は、接触不良、抜けないように確実に行ってください。

- 15 A × 2
- 28 A × 1（NEMA L6-30）
さし込み：プラグをさし込み、右に回す
抜き取り：プラグを左に回し、抜き取る



ここがポイント！

28 A（NEMA L6-30）用の市販品プラグ（参考）

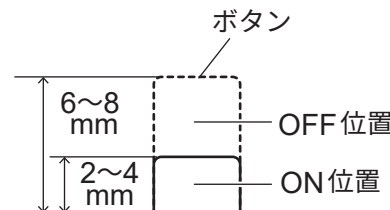
- パナソニック株式会社：WF8330
- 株式会社 明工社：MH2578
- アメリカン電機株式会社：3322R-L6

i. 交流サーキットブレーカー

交流コンセントに過電流が流れるなどの異常があった場合に、電気の供給を止めて本機を故障から守ります。

ON：通常時

OFF：ブレーカーが働き、交流電源が取り出せません。



ここがポイント！

- 交流サーキットブレーカーが「ON」時は、それ以上ボタンを押さないでください。
- 交流サーキットブレーカーが「OFF」になる場合は、水にぬれる／ゴミが付くなどコンセント自体に異常がないか確認してください。異常を取り除き再度使用する場合は2分以上待ってからボタンを押し込んで「ON」にしてください。

j. 周波数切替スイッチ

周波数を切り替える（50 Hz ⇄ 60 Hz）スイッチです。エンジン始動前に、接続機器に合わせて周波数を切り替えてください。



ここがポイント！

- ご購入時は周波数切替スイッチは「50Hz」にセットされています。
- 周波数の切り替えは、エンジン停止時に行ってください。

k. 直流シガーソケット（DC12 V 8 A）

直流電気の出力端子です。取り出し方は18ページ「2. 直流電源（DC 12 V 8 A・シガーソケット）」を参照してください。

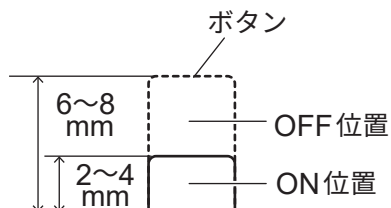
各部の名称と付属品

l. 直流出力復帰ボタン

直流回路を保護します。

ON：通常時

OFF：保護回路が働き、直流電源が取り出せません。

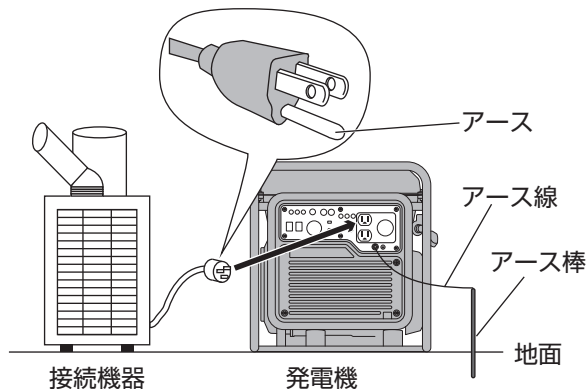


ここがポイント！

- 出力復帰ボタン「ON」時は、それ以上ボタンを押し込まないでください。
- 直流出力復帰ボタンが「OFF」になる場合は、取り出す電気の量を定格出力以内に減らしてください。使用中に定格以上の電流が流れると自動的に「OFF」になります。(38ページ「3. 対応する接続機器の目安」参照) 再度使用する場合は2分以上待ってからボタンを押し込んで「ON」にしてください。

n. アース端子

接続機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地（アース）してください。



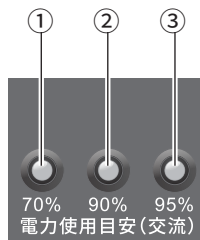
ここがポイント！

- アース線、アース棒は別売です。
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- アース棒の接地工事は電気工事店にご相談ください。

m. 電力使用目安（交流）

電気の取り出し状況目安を確認できます。

ランプの状態	電気の取り出し状況
すべて消灯	最大の0%～約70%使用
① 点灯	最大の約70%～90%使用
① ② 点灯	最大の約90%～95%使用
① ② ③ 点灯	最大の約95%以上使用

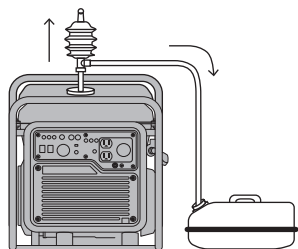


運搬する

本機の移動や運搬時には、次のことを必ず守ってください。

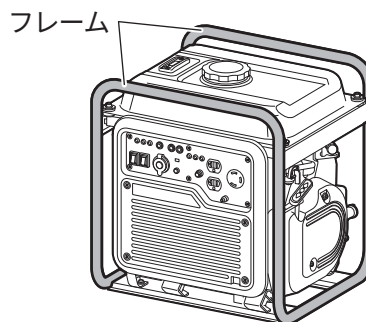
1. 準備

- 1) エンジンスイッチを「OFF」にする
- 2) 燃料コックを「止」にする
- 3) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する
- 4) 燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外す
- 5) 市販の手動式ガソリン用ポンプを使用しガソリンを燃料携行缶へ移す



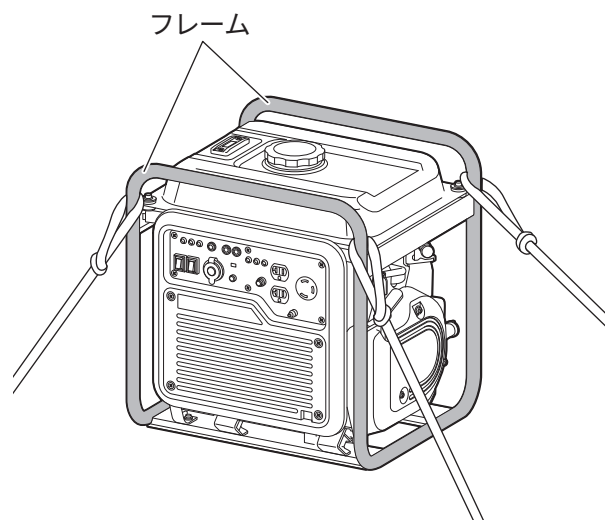
2. 移動

フレームを持ち移動します。
2人で持つことを推奨します。



3. 運搬

- 1) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所に積載する
- 2) ロープなどでしっかり固定する
ロープはフレームに掛けてください。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

給油

作業前に必ず2ページ「安全上のご注意」をお読みください。

本機には「ガソリン」と「エンジンオイル」が必要です。必ず給油してからご使用ください。

1. ガソリン

作業は本機を水平にして行ってください。

タンク内ガソリンの劣化防止のため、30日に1回は新しいガソリンに交換してください。

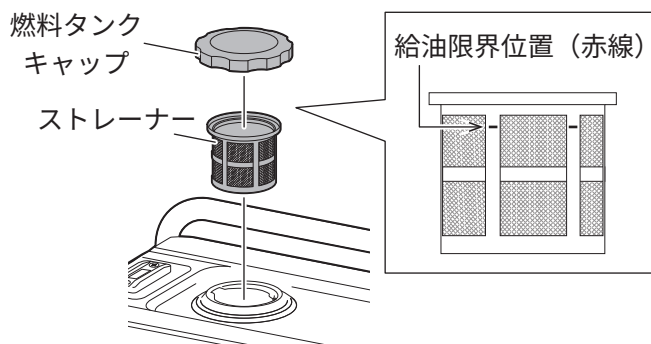
使用燃料：無鉛ガソリン
(自動車用レギュラーガソリン)
燃料タンク容量：9.3 L

1) エンジンが停止していることを確認する

2) 燃料タンクキャップを外す

3) ガソリンを給油する

ストレーナーの給油限界位置（赤線）を超えないようにゆっくりと給油してください。限界位置以上に給油すると、ガソリンが漏れるおそれがあります。



ゴミ混入によるエンジン不調を防ぐため、ガソリンはストレーナーを通して給油してください。

4) 燃料タンクキャップを取り付け、確実に締め付ける



ここがポイント！

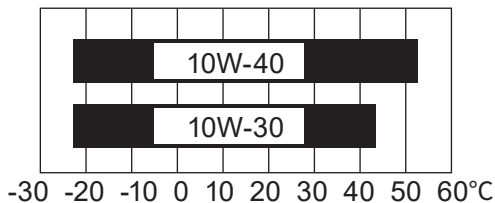
- ガソリン切れになる前に、なるべく早めに給油してください。
- 給油後長時間経ったガソリンは自然劣化しエンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

2. エンジンオイル

1) エンジンオイルを準備する

推奨オイル：4サイクル用エンジンオイル
SE級以上
SAE10W-30
エンジンオイル規定量：0.55 L

使用環境の外気温が次の範囲内であれば、記載の粘度のエンジンオイルが使用できます。

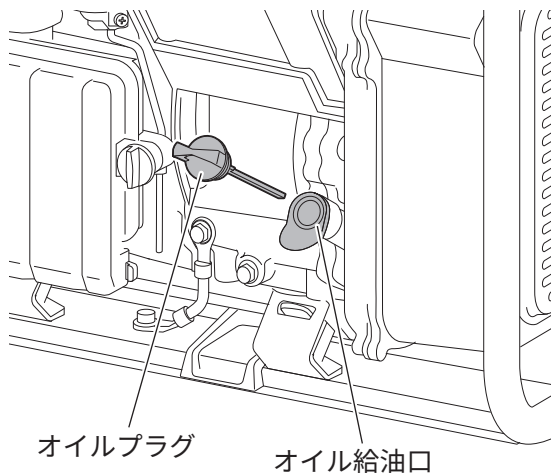


ここがポイント！

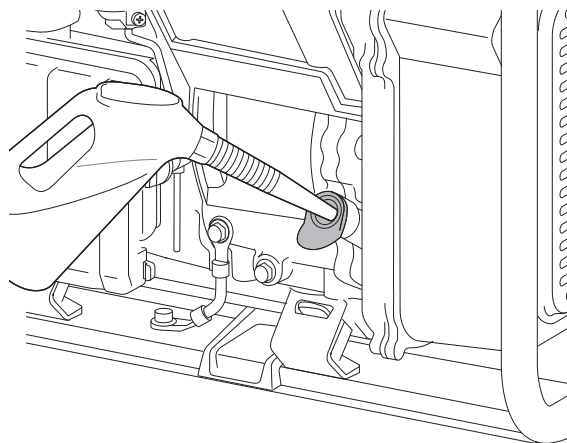
- SA級～SD級のエンジンオイルを使用するとエンジンが焼き付き、故障の原因になります。
- 2サイクル用エンジンオイルは、エンジン故障の原因になります。
- 指定外のエンジンオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

2) 本機を水平な場所に置く

3) オイルプラグを取り外す



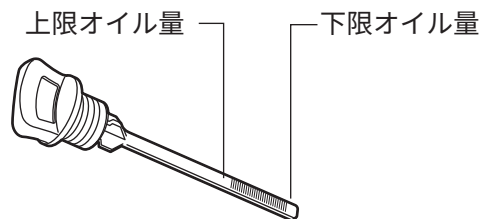
4) エンジンオイルを給油する



- じょうご、オイルジョッキを使用すると給油しやすくなります。
- エンジンオイルがあふれないよう少しずつ様子を見ながら給油してください。

オイル
規定量
0.55L

5) オイルゲージを布などで拭き、オイル給油口にさし込んでエンジンオイルの量を目盛りで確認する



6) オイルプラグを取り付け、確実に締め付ける



ここがポイント！

- エンジンオイルを交換するときは29ページ「2. エンジンオイルの交換」を参照してください。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

エンジンの始動



作業前に必ず2ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 始動前点検

対象部品	項目
エンジンオイル	量
ガソリン	量、漏れ
エアクリナー	点検
燃料配管部	亀裂、損傷の確認

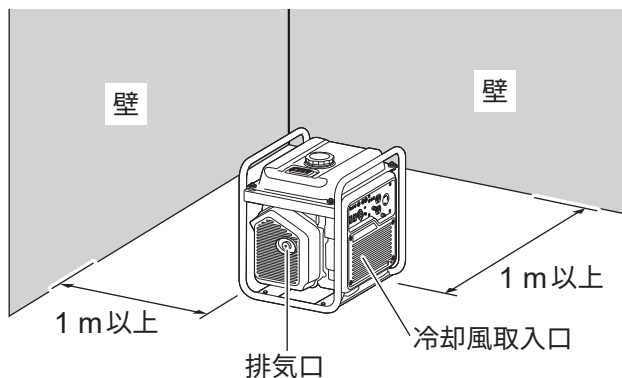
詳しくは24ページ「定期点検を行きましょう」参照



ここがポイント！

本機の設置環境を確認してください。

- 周囲に燃えやすい物（特にガソリン）や危険物、また火の気がない
- 風通しが良い
- 建物および他の設置物から1 m以上離れている
- 本機の排気口および冷却風取入口を風通しの良い、広い場所に向けている（図参照）
- 段ボールなどで囲っていない
- 小石、土、砂利、草の上、やわらかい地面上や傾斜地でない
やむをえず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を水平に安定させてください。本機の冷却風取入口がふさがると、故障するおそれがあります。
- 雨や水などがかからない



2. エンジンの始動



ここがポイント！

- 本機が移動、横倒し、落下、破損などするような位置で使用しないでください。横倒ししたままエンジンをかけないでください。エンジン故障の原因になります。
- 雨でぬらした、また内部に水が入った場合は、本機および接続機器の使用を中止し、点検修理にお出しください。内部回路がぬれると、故障のおそれがあります。

1) (交流使用時) 周波数切替スイッチを、使用する接続機器の周波数に合わせる

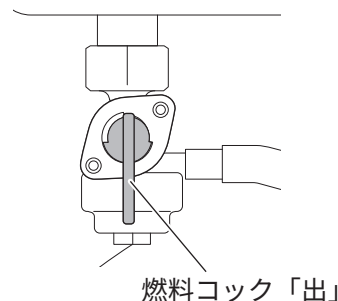
2) エコモードスイッチを「OFF」にする



3) アース端子を接続する

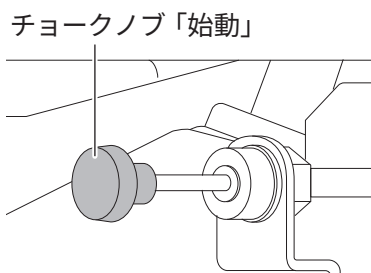
- 接続機器がアース付きプラグの場合、本機も必ず接地（アース）してください。（12ページ「n. アース端子」参照）

4) 燃料コックを「出」にする



エンジンの始動

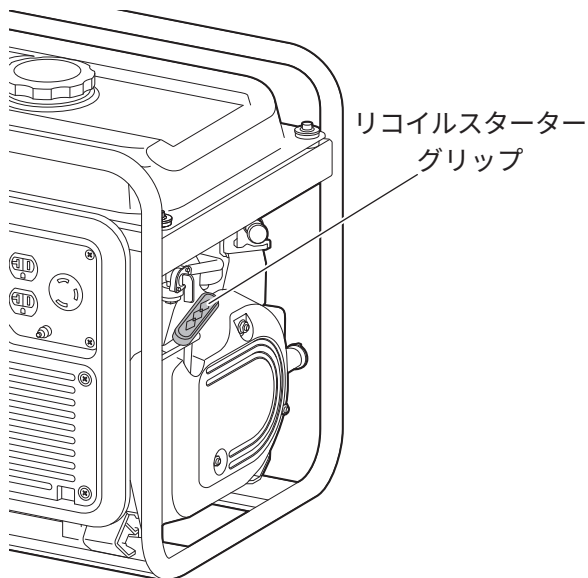
- 5) チョークノブを「始動」にする
エンジンが温まっている場合や夏期は「運
転」にする



- 6) エンジンスイッチを「ON」にする



- 7) リコイルスターターグリップ（以下リコ
イル）を引いて重くなる場所を探して、
重くなったところから勢いよく引く

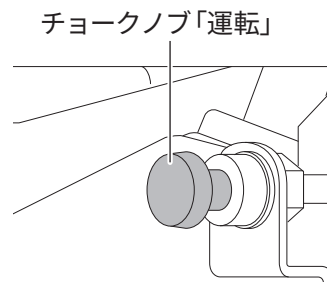


ここがポイント！

- リコイルは勢いよく引いてください。勢いが足りない（始動時のエンジン回転が遅い）と、エンジンが始動しないことがあります。
- リコイルを数回引いてもエンジンが始動しないときは、チョークノブを逆の位置にして再度リコイルを引いてください。

- 8) エンジンが始動したらリコイルをゆっくり元の位置に戻す

- 9) 始動後、エンジンの回転が安定したら
チョークノブを徐々に「運転」にして、
暖気運転を行う



暖気運転の目安

気温	暖気運転時間
5°C以上	3分
5°C以下	5分

ここがポイント！

- 「始動」状態で長時間運転しないでください。エンジンの故障の原因になります。
- エンジン始動後、過負荷警告ランプ（赤）が数秒間点灯しますが、異常ではありません。

電気の取り出し

作業前に必ず2ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 交流電流 (AC)

交流電源の使用できる範囲は38ページ「3.1 交流」を参照してください。



ここがポイント！

- 周波数切替スイッチは、エンジン始動前に行ってください。

1) エンジンが始動していることを確認する

(16ページ「エンジンの始動」参照)

2) 数秒後、出力ランプ (緑) が点灯していることを確認する

出力ランプ (緑) が点灯せず過負荷警告ランプ (赤) が点灯している場合は、出力復帰ボタンを押してリセットしてください。(11ページ「f. 出力復帰ボタン (交流用)」参照)



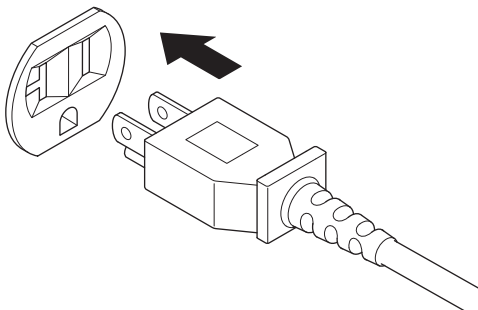
3) 交流サーキットブレーカーが「ON」になっていることを確認する

「OFF」になっている場合は、「ON」にしてください。(11ページ「i. 交流サーキットブレーカー」参照)

4) 接続機器のスイッチが切れていることを確認して、接続機器のプラグを確実にコンセントにさし込む

消費電流の合計が上限を超えないようにしてください。

消費電力の合計：28 A以下



5) 接続機器のスイッチを入れる

コントロールパネルの各ランプを確認してください。(19ページ「3. ランプの表示」参照)



ここがポイント！

- 延長コードを使用する場合、接続機器の仕様を確認のうえ、コードの断面積1.5 mm²のときは60 m以下、2.5 mm²のときは100 m以下のものを使用してください (弾力があるゴム絶縁ケーブル (IEC60245-4による) またはその同等品のみ)。

2. 直流電源 (DC 12 V 8 A ・ シガーソケット)



ここがポイント！

- シガーソケット使用時にはエコモードスイッチを「OFF」にしてください。

1) エンジンが始動していることを確認する

(16ページ「エンジンの始動」参照)

2) 数秒後、出力ランプ (緑) が点灯していることを確認する

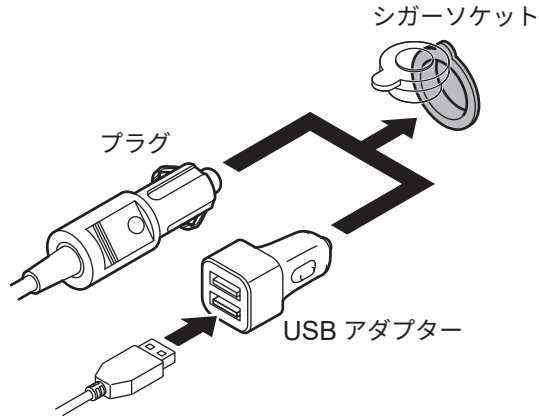
出力ランプ (緑) が点灯せず過負荷警告ランプ (赤) が点灯している場合は、エンジンをいったん停止させてから、エンジンを再始動させてください。



電気の取り出し

3) 接続機器のスイッチが切れていることを確認して、プラグをシガーソケットにさし込む

USB 機器を使用する場合は、付属の USB アダプターをシガーソケットにさし込んでご使用ください。



ここがポイント！

- シガーソケットから定格以上の電流が流れると、直流出力復帰ボタンが「OFF」になり、電気が取り出せなくなります。(12ページ「1. 直流出力復帰ボタン」参照)

3. ランプの表示

点灯: ● 点滅: ☀ 消灯: ○

過負荷警告ランプ	出力ランプ	原因	処置
過負荷 赤色	出力 緑色		
○	●	通常運転	
●	○	交流コンセントから定格出力を超える電気が出力されたとき	負荷を減らす
		使用器具に異常があったとき	使用器具を点検する
		排気口詰まり 本機に異常があったとき	清掃 (35ページ参照) 修理をご依頼ください
☀	●	過負荷保護の直前	負荷を減らす
☀ ←→ ○ 6回 3秒	○	電気の取り出し過ぎ、 または接続機器の異常	負荷を減らす
			接続機器を点検する
☀ ←→ ○ 3回 3秒	○	本機の温度が異常に高くなったとき	エンジンを止め、 冷えるまで待つ
上記に当てはまらない場合		修理をご依頼ください	

並列運転

弊社製の同一の発電機を並列に接続し、使用することができます。

専用の3 kVA用並列コネクタ（別売）に同梱の取扱説明書をよくお読みのうえ使用してください。

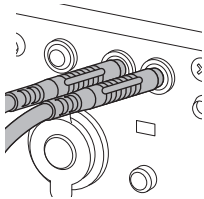


ここがポイント！

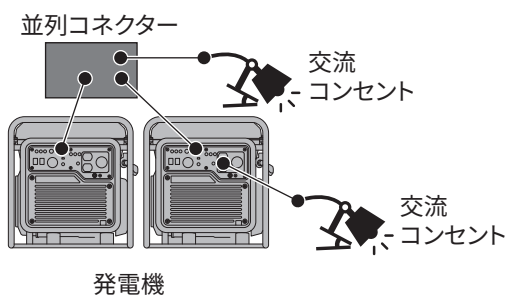
- 並列運転は2台まで、同一機種に限ります。
- 他社製の発電機やコネクタを使用しての並列運転はできません。
- 水中ポンプやコンプレッサなど起動時に大電流が流れる接続機器を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯することがありますが、異常ではありません。

1. 並列運転する

1) 並列コネクタを接続する



2) 双方のエンジンを始動する



3) 電気を取り出す

(18ページ「電気の取り出し」参照)

2. 単独運転に戻す

1) 双方のエンジンを停止する

(21ページ「1. 通常停止」参照)

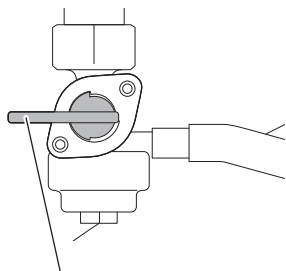
2) 並列コネクタを外す

エンジンの停止

作業前に必ず2ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 通常停止

- 1) 接続機器のスイッチを切る
- 2) プラグをコンセントやシガーソケットから抜く
- 3) エコモードスイッチが「ON」の場合、「OFF」にする
- 4) 燃料コックを「止」の位置にする



燃料コック「止」

- 5) エンジンスイッチを「OFF」にする



2. しばらく使用しない場合

本機を1週間以上使用しない場合は、キャブレター詰まりの予防のため次の操作を行ってください。

- 1) 「通常停止」の1) から4) を行う

- 2) エンジン停止まで待つ（約2分間）

エンジンが停止しない場合は次を確認してください。

- ・エコモードスイッチが「OFF」になっている
- ・燃料コックが「止」になっている

それでもエンジンが停止しない場合は故障しているおそれがあります。

- 3) エンジンスイッチを「OFF」にする



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

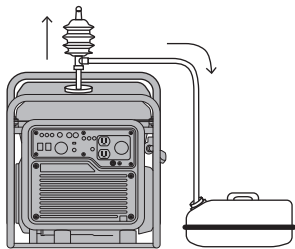
その他

保管

次回の使用が3か月以内になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。

1. 一時保管

- 1) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する
- 2) 燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外す
- 3) 市販の手動式ガソリン用ポンプを使用しガソリンを燃料携行缶へ移す



- 4) 燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り付ける
- 5) エンジンを始動する
(16ページ「エンジンの始動」参照)



ここがポイント！

- エコモードスイッチは「OFF」にしてください。
- 電気機器は接続しないでください。

- 6) 始動後、エンジンの回転が安定したら、燃料コックを「止」の位置にする

- 7) エンジン停止まで待つ

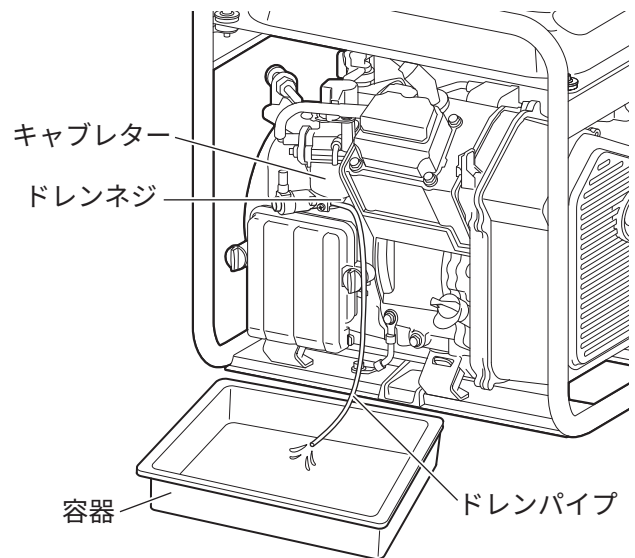
約2分後、エンジンはガス欠状態で停止します。



ここがポイント！

- 燃料タンク内のガソリン残量によってガス欠状態になるまでの時間は変わります。

- 8) 排出するガソリンを受ける容器を用意する
- 9) キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーでゆるめてガソリンを抜く



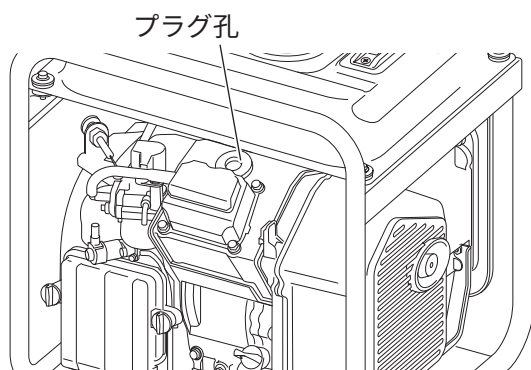
ここがポイント！

- キャブレター内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質し（キャブレター詰まり）エンジンがかからなくなる場合があります。
- 廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

- 10) ドレンネジを締め付ける
- 11) ドレンパイプを元に戻す
- 12) エンジンスイッチを「OFF」にする
- 13) 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する

2. 長期保管

- 1) 「一時保管」の12) までを行う
- 2) 点火プラグを取り外す
(30ページ「3.1 取り外し」参照)
- 3) プラグ孔からエンジンオイルを3~5 mL 給油する



- 4) リコイルを2~3回ゆっくりと引く



ここがポイント！

- リコイルは勢いよく引かないでください。プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく吹き出すおそれがあります。

- 5) 点火プラグを取り付ける
(32ページ「3.3 取り付け」参照)

- 6) リコイルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にする

- 7) 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する

- 8) 本機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管する

3. 試運転

常時使用せず、緊急時に使用する場合は、毎月1回試運転を行ってください。

- 1) エンジンを始動する
(16ページ「エンジンの始動」参照)
- 2) 電気機器を接続して、10分以上運転する
(18ページ「電気の取り出し」参照)
- 3) 問題なく作動していることを確認する
- 4) エンジンを停止する
(21ページ「エンジンの停止」参照)



ここがポイント！

- ガソリンおよびエンジンオイルは自然劣化します。ガソリンは30日に1回、エンジンオイルは、定期点検表（24ページ参照）に従い、定期的に交換してください。
- ガソリンおよびエンジンオイルは消防法に適合した燃料携行缶を使用し冷暗所に保管してください。寒暖差の大きい場所では結露が発生してエンジンオイルに混入し、エンジン不調の原因になります。
- 交換部品は、必ず純正部品、または指定された物を使用してください。

定期点検を行いましょ

本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために、定期点検を行いましょ。

点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検をするときは接続機器を取り外し、エンジンを停止してください。
- 期間または運転時間のどちらかが経過後、すみやかに実施してください。

対象部品	点検項目	作業開始前点検	初回の1か月後 または 20時間運転後	3か月ごと または 50時間運転ごと	6か月ごと または 100時間運転ごと	24か月ごと または 250時間運転ごと
エンジンオイル	量	●				
	交換 (29ページ)		●		●	
ガソリン	量、漏れ	●				
エアクリーナー	点検	●				
	清掃 (32ページ)			● ^{※1}		
	ろ過部交換					● ^{※2}
点火プラグ	点検と清掃				●	
	交換 (30ページ)	250時間運転ごと				
燃料タンク ストレーナー	清掃 (34ページ)				●	
燃料コック ストレーナー	清掃 (34ページ)			●		
燃料配管部	亀裂、損傷の確認	●				
	交換					● ^{※3}
排気口	清掃 (35ページ)				●	
バルブクリアランス	点検と調整				● ^{※3}	
シリンダーヘッド、 ピストン	カーボンの除去	125時間運転ごと ^{※3}				

※1 ほこりの多い環境で使用した場合、1日1回または10時間運転ごとに行ってください。

※2 エアクリーナーは、ろ過部のみ交換を行ってください。

※3 適切な工具と整備技術を必要としますので、ご購入店または本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

定期点検（24ページ）以外の分解・修理は絶対にしないでください。修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

■ エンジン

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが 始動しない	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する	14
	オイル警告ランプ（赤）が点灯している →エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを規定量まで給油する	15
	本機が傾いている →オイルアラート機構の作動	水平にする	15
	指定外 [*] のガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	正しいガソリン・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は修理	14
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	16
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・交換・調整	30
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	32
	燃料タンクまたはキャブレターに水が入っている	キャブレターのドレンネジをゆるめて水を排出する	22
	チョークノブの位置調整	エンジンが冷えている場合や冬期は「始動」。エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」	17
	本機を大きく傾けた、転倒させたことによるオイル上がり	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	キャブレターや排気口が詰まっている		
上記を確認しても改善が見られない →エンジン内部部品の損傷			
リコイルスターターグリップが引けない、または重い	指定外 [*] のエンジンオイルによる固着	正しいエンジンオイルに入れ替え、改善されない場合は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	15
	エンジンの焼き付き	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	エンジンオイルの入れ過ぎ		
	本機を転倒させたことによるオイル上がり		
	リコイルスターターの不具合		
	エンジン内のサビ付き		
シリンダー内への異物混入			

※ 混合燃料／長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの／アルコール入りのもの／ペットボトルなど、消防法に適合していない携行缶で保管したもの

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが数分動いた後止まる	指定外 [※] のガソリン、エンジンオイルによるエンジン不調	正しいガソリン・エンジンオイルに入れ替え、改善が行われない場合は修理	14
	点火プラグまたはイグニッションコイルの劣化	点火プラグの点検・交換	30
	キャブレターが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
	本機を傾けた状態で置いている	水平な所に設置する	16
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	17
	複数の接続機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	—
排気口から白煙が出る、またはオイル垂れが多い	エンジンオイルを規定量以上入れた	エンジンオイルを規定量にし、改善されなければ本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	15
	本機を転倒させたことによるオイル上がり	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—
「パン」という大きな音が排気口付近です（始動時にアフターファイアーが出る）	エンジンがかかるまでのリコイルスターターの操作回数が多く、排気口付近で未燃ガスが燃焼している（＝アフターファイアー）	正しいエンジンのかけ方を再確認する	16
		点火プラグの点検・交換	30

※ 混合燃料／長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの／アルコール入りのもの／ペットボトルなど、消防法に適合していない携行缶で保管したもの

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

■ 本機

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
電気が取り出せない	過負荷警告ランプ（赤）が点灯・点滅、出力ランプが消灯する	過負荷の原因または接続器具の異常を改善する	10
	交流サーキットブレーカーが作動した（OFF）		11
	次の条件でエコモードを使用している ・水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる接続機器を使用 ・シガーソケットを使用	エコモードスイッチを「OFF」にする	10
	箱やシートをかぶせている、または屋内で使用するなど本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	16
接続機器が正常に動作しない	周波数が間違っている	接続機器の周波数に合わせる	11
	上記を確認しても改善が見られない →接続機器が本機に適していない	ご使用の接続機器の接続可否は接続機器メーカーなどにお問い合わせください	—
エコモードが使用できない	定格出力以下でも、起動時に大電流が流れる接続機器を接続している 水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる機器を接続している	通常運転で使用する	10
各種ランプが点滅している		本機の状態を確認する	19
ランプが19ページ【ランプ表示について】以外の点灯・点滅している		お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください	—

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

整備

1. ラベル

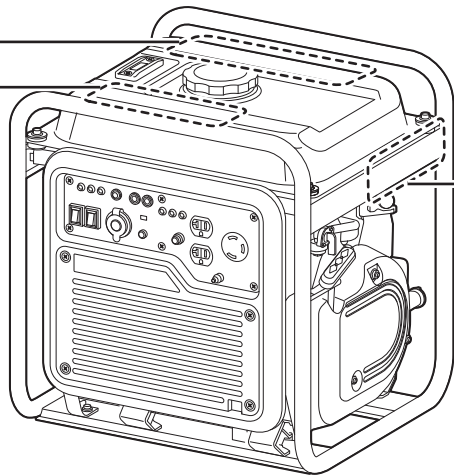
- ラベルははっきり見えるように、常にきれいに保ってください。
- ラベルが汚れて見えなくなった場合や、破れ・紛失などした場合には、購入店に注文し貼り替えてください。またラベルが貼られている部品を交換する場合、ラベルも新しいものに交換してください。

ガソリン専用
← 排気方向

危険
屋内使用厳禁
一酸化炭素中毒による死亡のおそれあり
・排気ガスは、有毒であるため屋内やトンネルなど換気の悪い所では運転しない。
・人、ペット、建物、設備に排気を向けない。

インバーター発電機
機種 GV-28IF
型式 GV-28IF-AAA-0
燃料 無鉛ガソリン
屋外用 雨中・室内での使用不可
株式会社 工進 CAC
MADE IN CHINA

交流	定格電圧 100V
流	定格電流 28A
	定格出力 2.8kVA
	定格出力周波数 50/60Hz 切替式
相	单相
力	率 1.0
直	流 定格電圧 12V
	定格電流 8A
	定格出力 0.096kVA



警告
火気厳禁 火災や爆発のおそれあり
・給油中はエンジン停止。
・ガソリン給油口に火気を近づけない。
・こぼれたガソリンは完全に拭き取る。
・燃料は赤レベル(規定量)以上入れない。
・可燃物のそばで使用しない。
・建物、設備に排気を向けない。
・本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたり、物を載せて使用しない。
・運転時、保管時は燃料コックを「止」にする。

水濡れ厳禁 感電のおそれあり
・雨や雪の中で使用しない。
・コンセントにぬれた手でさわらない。

接続禁止 感電や火災のおそれあり
・電力会社からの電気配線に接続しない。

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

燃料

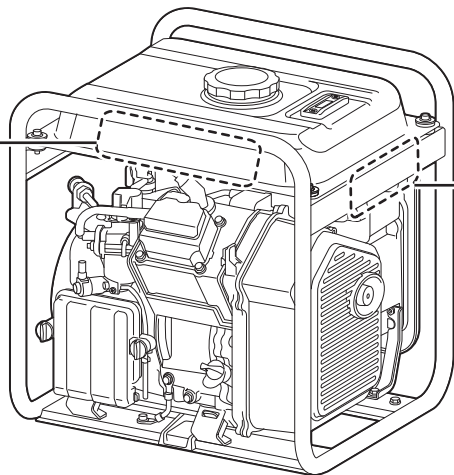
止

出

1

2 始動

5 運転



注意
高温注意
やけどのおそれあり
運転中および停止直後はマフラーおよびマフラー周囲にさわらない。

注意
高電圧注意
感電のおそれあり
運転中は点火プラグにさわらない。
指定プラグ TORCH:F8RTC NGK:BPR6ES

オイルは入れすぎない
4サイクル用エンジンオイル SE以上 SAE10W-30
給油時、本機は水平にする

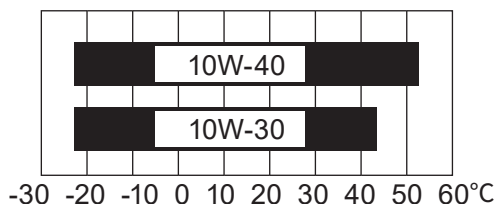
0.55L

2. エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。
- 給油されたエンジンオイルは自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。
- 次のようなエンジンオイルは使用しないでください。
長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの

推奨オイル：4サイクル用エンジンオイル
SE級以上
SAE10W-30
エンジンオイル規定量：0.55 L

使用環境の外気温が次の範囲内であれば、記載の粘度のエンジンオイルが使用できます。

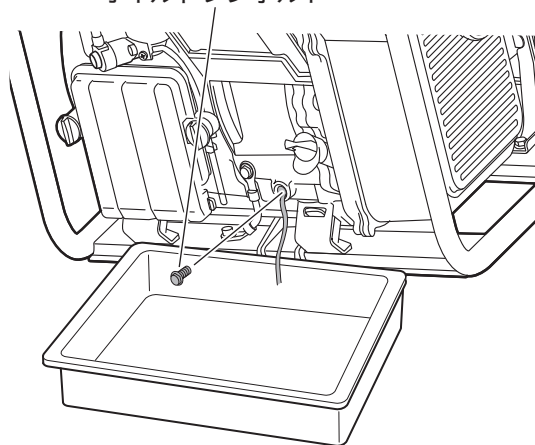


ここがポイント！

- エンジンオイルはエンジンが冷えてから交換してください。ヤケドのおそれがあります。

2.1 古いエンジンオイルの排出

- 1) エンジンを始動して、2~3分暖気運転をする
エンジンオイルが排出しやすくなります。
- 2) エンジンスイッチを「OFF」にする
- 3) 排出するエンジンオイルを受ける容器を用意する
- 4) オイルドレンボルトを外す
エンジンオイルを排出します。
オイルドレンボルト



- 5) 古いエンジンオイルの排出が終わったら、オイルドレンボルトを取り付ける



ここがポイント！

- 廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

2.2 新しいエンジンオイルの給油

(15ページ「2. エンジンオイル」参照)

3. 点火プラグ

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗したりすると、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。点火プラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

指定点火プラグ：F6RTC (TORCH) または
BPR6ES (NGK)



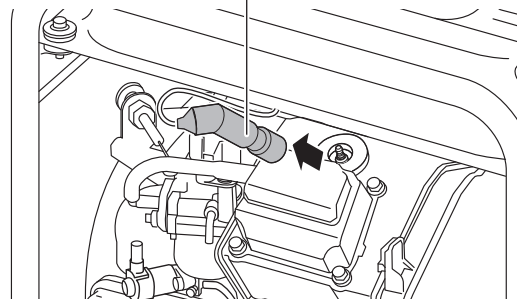
ここがポイント！

- 指定以外の点火プラグを使用するとエンジン故障の原因になります。

3.1 取り外し

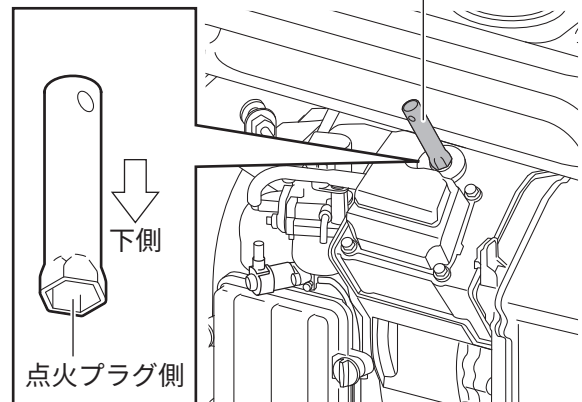
- 1) エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止する
- 2) 点火プラグキャップを外す

点火プラグキャップ



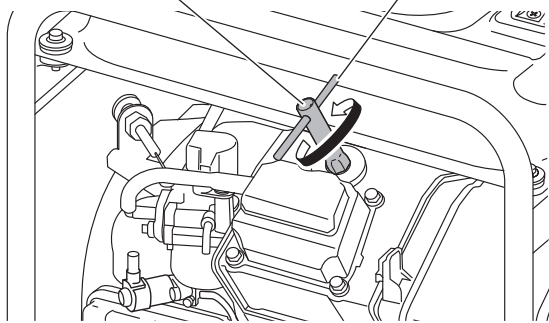
- 3) 点火プラグレンチを点火プラグの六角形部分に合わせてさし込む

点火プラグレンチ



4) 点火プラグレンチ上部の穴にバーハンドルを通して、反時計回りに回して取り外す

点火プラグレンチ バーハンドル



ここがポイント！

- 点火プラグを外すとき、最初は強い力が必要です。ケガをしたり、本機を倒したりしないように注意してください。

3.2 調整

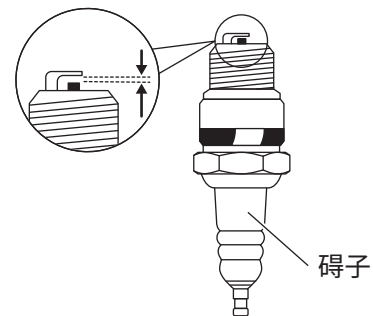
- 1) 点火プラグがぬれているときや汚れているときは、布切れなどで拭く
- 2) 電極付近が黒くまたは白く焼けている、ガソリンで湿っているときは、パーツクリーナーで清掃する（通常はキツネ色に焼けます）

点火プラグは、エンジンの始動方法などに問題があると次のようになります。

- 黒くくすぶっていたり、白く焼けたりしている
- エンジンオイルの入れ過ぎなどでカーボン付着がおこっている「くすぶり」
- エンジンが運転を開始した後も長く「始動」状態にした、エンジンスイッチが「OFF」の状態でもリコイルを何回も引いたなど、ガソリンが多く供給されすぎた「かぶり」

- 3) 電極のすき間（点火プラグギャップ）を確認して、次の寸法になっていない場合は調整する

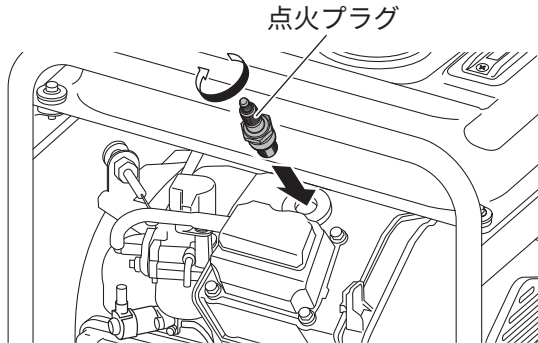
点火プラグギャップ：0.7～0.8 mm



3.3 取り付け

1) 点火プラグを取り付ける

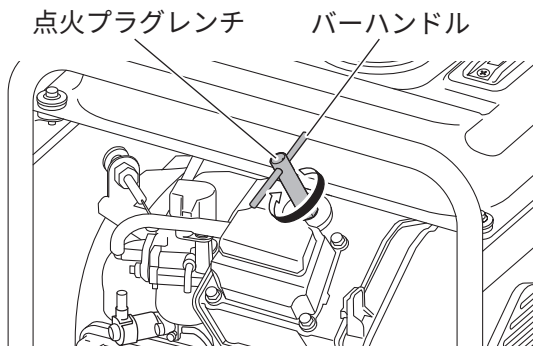
電極部分を下にして、手で元の場所に時計回りで取り付けてください。



2) 点火プラグレンチを取り付けて締める

3) バーハンドルを付けて増し締めする

1/4から1/2回転を目安に増し締めしてください。



4) 点火プラグキャップを取り付ける



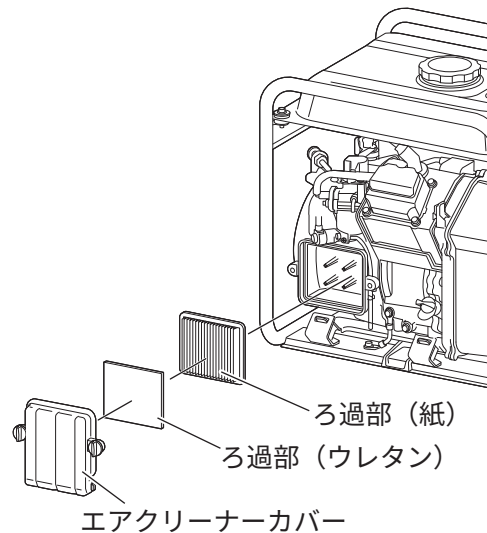
ここがポイント！

- 点火プラグキャップは根元を持ち、取付方向にまっすぐ確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。斜めに挿入すると点火プラグキャップが破損する場合があります。
- 点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンが始動しない場合は、新しいプラグに交換してください。

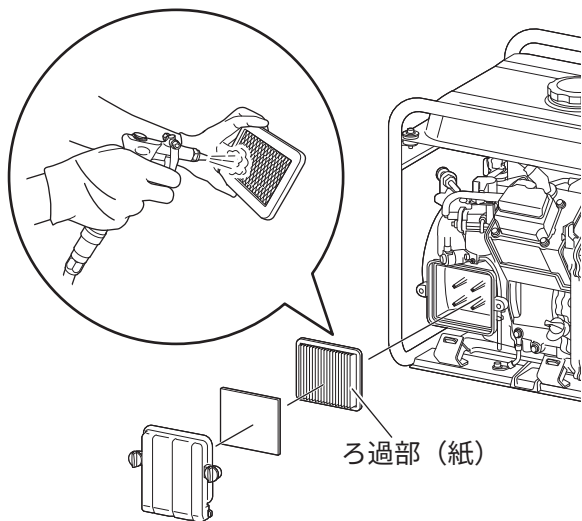
4. エアクリーナーの清掃

エアクリーナーが目詰まりすると出力不足やガソリン消費が多くなるので、定期的に清掃してください。ほこりの多い場所で使用した場合、1日1回または10時間運転ごとに行ってください。

- 1) エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止する
- 2) エアクリーナーカバーのネジを回しエアクリーナーカバーを外す
- 3) ろ過部を取り出す



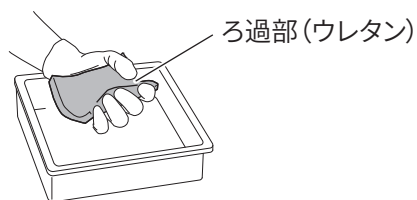
- 4) ろ過部（紙）は内側から圧縮空気（圧力 207 kPa 《30 psi》以下）を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落とす



 **ここがポイント！**

- ブラシを使用して清掃しないでください。汚れが繊維の中に入る場合があります。

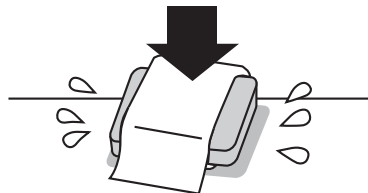
- 5) ろ過部（ウレタン）をきれいな灯油で洗浄する



- 6) ろ過部（ウレタン）の灯油をよくしぼる

- 7) ろ過部（ウレタン）をエンジンオイルにひたして、布で包み押しつぶすようにしぼる

垂れない程度に余分なエンジンオイルを取り除いてください。



 **ここがポイント！**

- ろ過部（ウレタン）をねじらないでください。破れてエンジン不調の原因になります。

- 8) ろ過部やエアクリーナーカバーなど各部品に損傷がないことを確認する

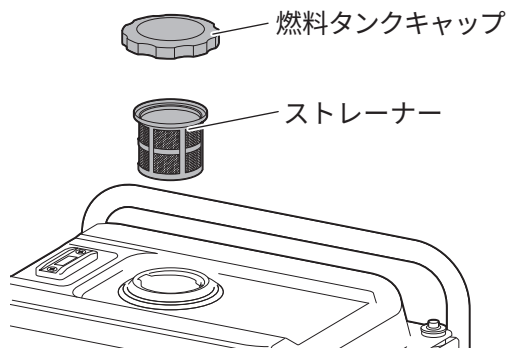
- 9) 取り外しと逆の手順で取り付ける

 **ここがポイント！**

- ろ過部はめくれやずれのないように、カバーは確実に取り付けてください。
- ろ過部を取り付けていない状態で、エンジンを始動させないでください。エンジンの耐久性に著しく悪影響を与えます。
- 廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

5. 燃料タンクストレーナーの清掃

- 1) エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止する
- 2) 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す

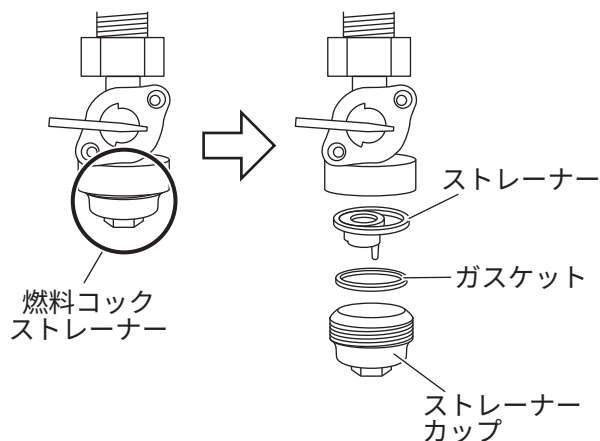


- 3) きれいな灯油または中性洗剤でストレーナーを洗浄する
洗浄後はストレーナーをよく拭き取ってください。
- 4) ストレーナーを燃料タンクの奥までしっかり挿入する
- 5) 燃料タンクキャップを取り付ける

6. 燃料コックストレーナーの清掃

- 1) 燃料コックを「止」にする
- 2) 燃料コックストレーナー下部のストレーナーカップをレンチで取り外す
レンチは「10 mm」を使用してください。

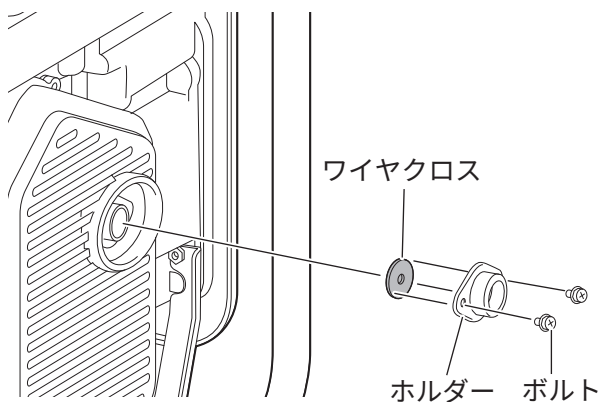
- 3) ストレーナーカップを取り外して、点検する
ストレーナーカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。



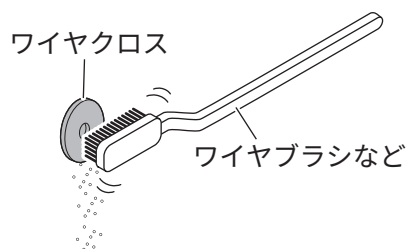
- 4) ガスケット、ストレーナーを取り外す
- 5) ストレーナーカップ、ストレーナーをきれいな灯油で洗浄する
洗浄後はストレーナーカップ、ストレーナーをよく拭き取ってください。
- 6) ガスケットを点検する
ガスケットが破損している場合は新品と交換してください。
- 7) ストレーナーカップ、ストレーナーおよびガスケットを取り付ける
- 8) 取り付け後、燃料コックを「出」にしてガソリン漏れがないことを確認する

7. 排気口の清掃

1) 排気口にある各部品を取り外す



2) ワイヤブラシなどで、ワイヤクロスの汚れを落とす



3) 取り外しと逆の手順で取り付ける

仕様

1. 主な仕様

機種名	GV-28iF	
製品名	インバーター発電機	
用途	屋外での電源	
形式	多極界磁回転型	
力率	1	
定格周波数	50/60 Hz 切替式	
交流	定格出力	2.8 kVA
	定格電圧	100 V
	定格電流	28 A
	並列時定格出力	5.4 kVA
	並列時定格電流	54 A
直流	定格電圧	12 V
	定格電流	8 A
装備	交流過電流保護装置	電子式、サーキットブレーカー
	直流コンセント	12 Vシガーソケット×1個
	直流過電流保護装置	サーキットブレーカー
燃料タンク容量（満タン時）	9.3 L	
定格連続運転時間（満タン時）	5.7 h	
1/4 負荷（エコモード）連続運転時間（満タン時）	16.1 h	
始動方式	リコイルスターター式	
使用環境温度	-5~40 °C	
乾燥重量	28.0 kg	
全長×全幅×全高	444×385×473 mm	

2. エンジン諸元

エンジン種類	空冷4ストロークガソリンエンジン
総排気量	185 cm ³
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
点火プラグ	F6RTC (TORCH)
エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイルSE級以上 SAE 10W-30
エンジンオイル規定量	0.55 L

本機を次の環境で使用すると、出力が低下する場合があります。
接続機器のスイッチを切って、本機の負荷を下げてください。

- 周囲温度：40 °C以上
- 気圧：100 kPa以下
- 相対湿度：30 %以上

3. 対応する接続機器の目安

3.1 交流

アース付3本足コンセント 15 A × 2個	AC100 V 合計28 Aまで
引掛形アース付3本足コンセント (NEMA L6-30) 30 A × 1個	

使用例		単体運転	並列運転
電気ポット オーブントースター 炊飯器 テレビ 照明 (白熱灯、ハロゲン 灯など)	交流のみ	2,800 W (VA) まで	5,400 W (VA) まで
	交流・直流併用時	2,700 W (VA) まで	5,200 W (VA) まで
水中ポンプ コンプレッサー ドリル ジグソー 掃除機 照明 (水銀灯、メタルハライドランプなど)		700 W (VA) まで	1,350 W (VA) まで
		モーターは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。接続機器会社にお問い合わせください。	

- ご使用の前に、使用する接続機器の消費電力を確認してください。
- 安定器付きの放電ランプ (水銀灯、メタルハライドランプなど) は、消灯後、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。すぐ再点灯した場合、本機や他の接続機器に不具合が発生する原因になります。
- 使用する接続機器によっては、本機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。接続機器メーカーなどにお問い合わせください。

3.2 直流

シガーソケット × 1個	DC 12 V 8 A まで
USB アダプター : USB ポート × 2個	DC 5 V 合計2.4 A まで

- 直流電源ではエコモードは使用できません。エコモードスイッチを「OFF」にしてください。

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。

また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧ください。

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

1. ご注文時のお願い

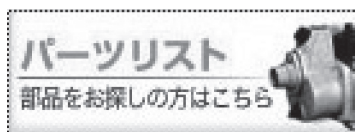
部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パーツ表・価格

1) <https://www.koshin-ltd.co.jp>へ
アクセス



2) トップページ「パーツリスト」バナー
をクリック



3. オプションパーツ（別売拡張部品）

名称	番号	備考
12 V 鉛蓄電池充電ケーブル	機種名：PA-373 JAN：4971770-200388	
3 kVA用並列コネクタ	0650843	
段積みフレーム	0651290	

KOSHIN 保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機種	インバーター発電機 GV-28iF		※お買い上げ日(納品日)		年 月 日
保証期間	お買い上げ日より1年間(ただし、営業・業務用または不特定多数者が使用する場合は、お買い上げ日(納品日)より6か月)				
お客様	※お名前	〒		※購入店	住所
	※ご住所	〒			店名
	電話	()		電話	()

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
 - 取扱説明書に記載の用途以外の目的による故障または損傷。
 - 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
 - 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
 - 同梱付属品、消耗品の交換。
 - 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
 - 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
 - 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
 - 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書) 貼付位置

お問い合わせ

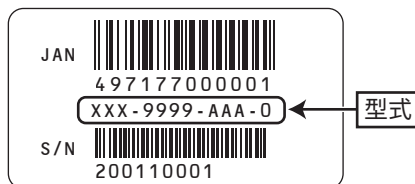
【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■ 製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■ 製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■ 製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

Q&A Eメール お客様サポートページ **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

Eメール pump@koshin-ltd.co.jp